

平成 27 年度 障がい者福祉センター「あかみね」デイサービス事業

障がい者福祉センターは、河内長野市内在住の障がい者と地域との自由な交流を通じて障がいを正しく理解していただくとともに、引き続き障がい者福祉の拠点としての役割を果たすべくセンター機能の充実に努めた。また、障がい者のニーズに応じた事業を行い、個々の状況に応じた対応や既存する教室・クラブのさらなる充実をボランティアとともに展開した。さらに、障がい児の日中活動の場を提供し、障がい児の課題の把握を行い、専門家とともに障がい児の社会的場面での困難さの改善が図れるよう保護者と協同で支援を行った。また、開所以来障がい者とボランティア、職員が築いてきたセンター運営をもとに第 3 期指定管理者に応募し、引き続き平成 28 年度からの 5 年間の指定を受託した。

障がい者福祉センター利用者数合計

(単位：人)

	重 度	中 度	軽 度	小 計	その他	平成 27 年度	平成 26 年度	前年度対 比
クラブ・教室	3,023	2,304	979	6,306	4,696	11,002	11,167	-165
貸 室	682	561	132	1,375	2,695	4,070	4,137	-67
生 活 介 護	2,497	991	0	3,488	74	3,562	3,586	-24
そ の 他				645	79	724	831	-107
合 計				11,814	7,544	19,358	19,721	-363

送迎バス利用者数合計

(単位：人)

	朝迎え	昼迎え	3 時送り	4 時送り	平成 27 年度	平成 26 年度	前年度対 比
ルート送迎	598	663	976	598	2,835	2,595	240

(1) 機能訓練および社会適応訓練

(開催回数：285 回、参加者 1,927 人)

①機能訓練

ア 館内事業

各クラブ・教室を開催した（カラオケ・料理など）

・ デイサービス利用者対象個別訓練

毎週火曜日、金曜日に障がい者の健康維持・機能運動・生活相談を実施し、デイサービス事業のクラブ・教室の参加者との相談や参加へとつなげた。

(登録者数 28 人)

・ 生活介護対象個別訓練

生活介護の利用者に機能運動・生活相談を随時実施した。

イ 館外事業

- ・福祉センター「錦溪苑」に理学療法士を派遣し、介護予防訓練、機能回復維持訓練を実施した。
- ・心身、介護相談会の実施（福祉センター「錦溪苑」で各訓練後に実施）

②社会適応訓練

障がい者の社会活動への参加と自立を促進するための個別支援事業と集団支援事業を実施した。

ア 個別支援事業

パソコンクラブを実施した。

イ 集団支援事業

カラオケ教室・クラブ、料理教室、手作りパン教室、キングホビー教室、手話サロン、エンジョイくらぶを実施した。

ウ その他

- ・精神障がい者対象事業
「ちょっとで」を実施した。
(花見、ヨガ、プール、ソフトバレー、クリスマス夕食作り、錦溪苑でのレクリエーション)
- ・知的障がい者対象事業
知的障がい者音楽教室、ショートテニスクラブ、フライングディスク教室、ペアグラウンドゴルフ大会を実施した。

(2) 創作活動および更生訓練 (開催回数：427回、参加者3,894人)

日常生活に潤いのある充実した日々を過ごせる場を提供した。喜びを実感できる創作活動および更生訓練などを通して社会参加の促進を図ることを目的に、事業を実施した。

①創作活動

トールペイント、フラワーアレンジメント、書道、創作、絵画、手織り、陶芸などのクラブ・教室を開催した。

②更生訓練

障がい者の健康増進と社会参加の促進を図るため、各種相談事業・レクリエーション事業を実施した。(音楽・映画鑑賞・グラウンドゴルフ・茶道などのクラブ、教室)

(3) 講座・講習会の開催について (開催回数：317回、参加者4,234人)

ア 『みんなで歌おう 懐かしの歌謡曲』を開催した。

(ウィンターフェスティバル2015にて12月12日、参加者180人)

- ・演奏：アコースティッククラブバンド（当事者による演奏）

イ 『ボランティア講習会』を開催した。

- ・講師：桃山学院大学副学長・社会学部社会福祉学科教授 松端 克文氏

(2月26日、参加者34人)

ウ 『IT講習会』基礎からゆっくりワード初級講座を開催した。

(延べ、50人)

エ ボッチャ、大正琴、卓球、ボールエクササイズなどの教室を開催した。

(4) 医療、福祉、生活相談 (開催回数：96回、参加者214人)

①医療相談 毎月1回、専門医師の相談を実施した。

ア 整形外科医相談(偶数月) みやざき整形外科 宮崎医師

イ 精神科医相談 (奇数月) 老寿サナトリウム 北畑医師

②健康・生活相談

看護師および理学療法士が健康相談を月1回実施した。

③リハビリ相談

理学療法士による生活、心身、福祉用具、家族の介護等の相談を実施した。

④看護処置・看護相談

看護職員によるケガなどの応急処置や看護の相談を実施した。

(5) 市民啓発事業 (開催回数：12回、参加者515人)

①館内事業

各教室、クラブ、行事(団体交流事業・ウィンターフェスティバル2015)などを開催し、交流の場を提供することで、障がいに対する理解を促進した。また、各種学校などと連携し福祉教育・交流の場を提供した。

ア 中学校の職場体験の場としての受入れ

・長野中学校、加賀田中学校、千代田中学校より受入れた。(延べ、12人)

イ 小学校の総合学習の場としての受入れ

・小山田小学校より受入れた。(延べ、20人)

ウ 実習生を受入れ

・四天王寺大学より受け入れた。(延べ、6人)

・市教育委員会より新任教師を受入れた。(延べ、6人)

②館外事業

・「電車で行こう」で人とのふれ合いの中で障がいに対する理解の促進や変化するバリアフリー環境への体験の場とした。

神戸ハーバーランド&神戸湾遊覧

(10月28日、参加者10人)

天神橋筋商店街散策&読売新聞大阪本社見学

(12月18日、参加者10人)

③ホームページ

ホームページを定期的(毎月)に更新することで広く情報提供を行い、新規利用者の拡大を図った。

(6) ボランティア養成およびグループ活動支援

既存クラブ・教室で活動しているボランティアにボランティアコーディネーターがあかみね行事への参加協力を促し、個別およびグループでの支援活動を促した。

(7) 福祉団体の支援

①市身体障害者福祉会、市心身障害児・者父母の会の事務局として活動を支援した。

②団体交流事業で各障がい者団体のPRを行った。

「第10回さあ、秋だ!“みんなおいでや”」を実施し、障がい体験コーナーなどで障がい者間の交流や市民への正しい障がい理解の場を提供した。

(9月6日、参加者310人)

(8) その他必要な事業

(開催回数：34回、参加者217人)

①日中一時支援事業(あかみねウキウキ企画)およびSST(社会技能訓練)の実施

夏休み中の知的障がい児童を対象に紙粘土でランプシェードとホットドック作りを行い、仲間との交流や日頃体験できないレクリエーション体験を行った。また、大阪府立大学の立山清美氏とともに作業療法相談およびSSTを開催し、障がい児の社会的場面での困難さの改善が図れるよう保護者と協同で支援を行った。

②外出事業

ア バスツアーを実施した。

・エキスポシティ(大阪府)

(3月19日、参加者31人)

③大会参加への支援

大阪ボッチャ大会などへの参加に向けた、個人・団体の練習会を開催し、支援した。

ア 館内事業

・グラウンドゴルフ大会 (5月18日・10月19日、延べ参加者53人)

・ペアグラウンドゴルフ大会 (5月16日 参加者28人)

・ふれあい卓球大会 (10月24日、参加者43人)

イ 館外事業

・大阪ボッチャ大会 (11月23日、参加者4人)

・ファインプラザ大阪卓球大会 (2月11日、参加者17人)

④タクシー補助事業

利用件数は、268件あった。(登録者数48人・前年度237件)

平成27年度 障がい者福祉センター「あかみね」生活介護事業

利用者の意思・人格を尊重し、自立した日常生活や社会生活を営むことができるよう個別支援計画を作成して、排せつおよび食事の介護、創作的活動または生産活動の機会の提供、その他の便宜を適切かつ効果的に行った。さらに利用者の心身状況への対応や新たな利用者が利用するにあたっては、ピアセンターかわちながのなどともに連携を図りながら、生活相談も含みスムーズに利用できるように支援した。

(契約者数21人)

(1) 個別支援計画の作成

利用者・保護者との三者懇談を6月・10月・2月に実施し、支援内容・状況を説明するとともに、利用者・保護者からの新たなニーズを個別支援計画に反映して作成した。その結果として、利用者のサービス向上と利用日数増加へつながった。

(2) 身体などの介護

日中活動をするうえで必要な排せつ・食事・移動などの介護を行った。

(3) 生産活動

手工芸品（巾着袋・カバン・シュシュ・にぎりんぼうなど）の作成・販売、パソコン印刷(名刺・カレンダー・年賀状の受注・納品)および喫茶コーナーの運営を行った。また、今年度は新たに「THE・ぶとん」「ハンド手帳」の新商品を開発し、販売した。

①手工芸品の販売（市民サロン12回・くすのかまつりなどイベントへ参加5回）

②内職（ごみシール封入作業）

③印刷（受注納品 名刺55件・カレンダー534冊・年賀状12件・同窓会の案内や記念誌2件）

④喫茶（ウィンターフェスティバル2015にも参加）

(4) 創作的活動

毎月ごとに、季節を感じ取れる集合作品を作成し廊下へ展示した。また、個人作品として予定表を毎月作成し活用した。

(5) 機能訓練

嘱託医師や理学療法士の指導のもと、利用者の身体機能・日常生活力の維持向上に努めた。また、毎週1回、看護師の指導による集団および個別機能訓練を実施した。

(6) 生活相談

生活面での向上を図るために、短期入所や移動支援などを利用していない利用者とその保護者に対して、支援することでサービスの利用につながった。また、地域で高齢化し、孤立している利用者とその家族に対して、関係機関と連携したことで、地域で安心

して、暮らせるようになった。

(7) 健康管理

嘱託医師の指導に基づき、看護師が脈拍・体温・体重測定などを行い身体の変化に注意し健康管理に努め、身体 of 血行改善を目的に足浴・岩盤浴などを実施した。また、来館時に手洗い・うがいを実施し、マスク着用をうながした。

(8) 訪問支援

通所できない状況になった利用者の自宅などへ訪問し、通所できるように相談・支援などの支援を行った。

(9) 送迎サービス

送迎バスを運行し、利用者の利便性の向上を図った。

(10) 前各号に掲げる便宜に附帯する便宜

(2) から (9) に付帯する着替えおよび整容、その他日中活動上必要な介護・支援・相談・助言などを行った。

(11) その他必要な事業

①判定会議

利用希望者の受け入れを進めるために判定会議を開催し、スムーズな受け入れを進めた。(2回)

②教室・レクリエーション

ア ボランティアの支援により、ヨガ教室を週1回開催し、利用者の健康維持増進を図ったほか、おりがみ教室を月1回開催した。

イ 軽スポーツ(ボッチャ・フライングディスクなど)、カラオケ・音楽鑑賞を週1回開催した。

③職員研修

「障害者虐待防止法」(自主研修)

④生活介護PR活動・啓発

ア あかみねウィンターフェスティバル2015で喫茶コーナー、バザーで参加した。

イ 新規利用者2人と契約した。